

平成 30 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価（3月20日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①生徒の進路選択に適合する教育課程を編成し、組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②論理的思考力や他者と協働した問題解決能力を身につけさせる授業を実践する。</p>	<p>①生徒が主体的に生き生きと学ぶことができるような授業を行う。</p> <p>②すべての教科において、プログラミング教育を推進する。</p>	<p>①55分授業において、生徒自身が学ぶことの意義や内容を認識したり、振り返りを行うことによって、学習効果を高める。</p> <p>①同僚性を発揮して、授業力の向上を図る。</p> <p>②すべての教科において、プログラミング的思考力を育成する。</p>	<p>①「生徒による授業評価」における意欲的な取組み指数 3.5</p> <p>①授業力を向上させるために、組織的に取り組めたか。</p> <p>②すべての教科におけるプログラミング教育を通して、論理的思考力や他者との協働による問題解決能力を育成できたか。</p>	<p>①「生徒による授業評価」における意欲的な取組み指数 3.2</p> <p>増えた時間を授業の振り返り等に活用することで学習者が主体となる授業を実践する。</p> <p>②教員相互による授業見学を実施した。授業における様々な工夫や生徒の活動状況など、教員が学びあうことによってそれぞれの授業力を高めあうことができた。</p>	<p>①生徒がより主体的に学習に取り組めるよう、授業の質の向上を図っていく。</p> <p>①授業見学のための時間の確保や、効果的な授業を実施するためのカリキュラムマネジメントが求められる。</p> <p>②研究授業の在り方等を引き続き研究することによって、全ての教科において、プログラミング的思考力の育成の観点からの授業改善を図る。</p>	<p>授業が連続すると、先生方も大変だろう。時間が長くなった中で前時の確認や振り返りが行われるのは良いことだと思う。授業改善も積極的に行われているようだ。</p>	<p>・「生徒による授業評価」における意欲的な取組み指数が3.2にとどまった。増えた時間を振り返り等に活用することは定着しつつある。学習者の主体的な取組を促す授業の質の向上を図る。</p> <p>・授業互観週間を設け、教科を問わずに授業を見学し、研究協議で意見交換できたことにより、参加者それぞれに新たな気づきをもたらした。</p>	<p>授業改善に係る研修を有効に効率的に行うよう、調査研究グループと学務グループが協働して年間の計画を立てる。</p> <p>全教科においてプログラミングの視点からの授業改善を推進するよう、研修や授業互観の在り方を研究する。</p>
2	生徒指導・支援	<p>①生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。</p> <p>②生徒が自己肯定感を向上させ、コミュニケーション能力を身につけられる指導を実践する。</p>	<p>①生徒一人ひとりの状況を把握し、必要な支援を行う。</p> <p>②生徒が様々な人と関わることで、社会性を身につけ、自己肯定感が向上するよう支援する。</p>	<p>①生徒一人ひとりの状況を把握し、学年会、生徒情報交換会などを活用して情報の共有を図るとともに、必要に応じて教育相談コーディネーターを中心に、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや外部機関との連携を図る。</p> <p>②部活動、生徒会活動におけるボランティア活動に加え、一般生徒のボランティア活動への意識向上を図り、ボランティア活動参加の機会、参加生徒数を増やす。</p>	<p>①生徒の状況を把握し、必要に応じてケース会議等を速やかに実施し、外部機関等とも連携できたか。</p> <p>②ボランティア活動への参加生徒数。</p>	<p>①担任、養護教諭、学年等が把握した生徒の状況をケース会議等で共有し、個別の支援計画を立てて実行した。医療等外部機関との連携など、組織的な支援を実施した。</p> <p>②地域イベントへの参加協力は例年通り実施できた。「お掃除大作戦」は天候不良のため3回実施にとどまった。</p>	<p>①支援が必要な生徒を早期に確認するために担任・養護教諭・教育相談コーディネーターとの連携をさらに高める。スクールメンターの活用法を研究する。</p> <p>②地域連携の範囲をどのように広げられるか検討したい。また様々な部活動が地域貢献に参加できるよう地域との連携を拡大したい。</p>	<p>支援が必要な生徒へのきめ細かな対応は評価できる。スクールメンターの配置も希望し、認められたのは幸いである。さらなる支援の充実を図ってほしい。</p> <p>地域イベントの参加については今後も継続してもらいたい。</p>	<p>支援が必要な生徒について、ケース会議等で情報を共有し、個別の支援計画を立てて実行できた。生徒個々の状況や生徒本人の意思等をよく確認しながら、進路変更も視野に支援計画を実行した。スクールカウンセラーの予約がいっぱいになる状況に鑑み、スクールメンター配置を希望し、予算が付いた。</p>	<p>異動等で人が変わる中で、校内の情報共有の在り方やスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携について、中心となる部署や教育相談コーディネーターがアンテナを高くし、タイムリーにコーディネートすることが肝要になる状況に鑑み、スクールメンター配置を希望し、予算が付いた。職員会議や生徒情報交換会等の機会を通じて校内体制の確認を行う。スクールメンター活用事業の周知を行う。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(3月20日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒が自ら進路目標を設定し、自主的に準備に取り組めるよう進路指導の充実を図る。	生徒が主体的に自らの進路選択をし、それを実現できるような指導・支援を充実させる。	高大接続改革を視野に入れ、生徒が主体的に進路を選択し、それを実現できるよう、適切な情報提供と個別指導・ガイダンス等を行う。	「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」におけるキャリア教育の成果満足群 80% (キャリア教育を受けたことにより自分が成長できたと思いますか)	大学入試説明会に参加し、最新の入試動向や高大接続改革の情報の入手に努めた。昨今の厳しい状況が生徒、教職員に伝わり、緊張感をもって臨んだ。生徒の満足度は81.5%であった。調査書の様式変更に伴い、増えた記入項目について、文案の作成やシステムの更新等準備を整えることが出来た。	入試改革に伴う対応策を立てるため、積極的に情報収集を行う。情報を共有し、生徒に還元していくには、ガイダンスや面談を充実させていくことが有効である。最終的な調査書の様式決定に備え、引き続き情報収集に努めるとともに、学年毎に必要なデータを蓄積していく。	高大接続に関連して新たな対応を迫られる中で高校はよくやっていると思う。指定校推薦で大学に入ってくる生徒は勉強することが身につけているように思われる。大学では、要望があれば、模擬授業などの協力はできる。	卒業生の進路決定は概ね希望通りだが、入学定員の厳格化等により、一般入試では厳しい状況がある。大学の入試説明会で得た情報は、生徒・保護者対象のガイダンスや三者面談を通して還元できた。	大学入試説明会や高大接続改革に係る研修等に積極的に参加する。それらから得た情報について、研修や復命により、当該学年だけでなく全体へ周知・提供する。
4	地域等との協働	地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。	①平成31年度のコミュニティスクール設置を視野に、地域との交流の場を拡大する。 ②本校への理解を深めてもらうために、本校の教育活動などを積極的に広報する。	①地域のイベントに積極的に参加するとともに、交流の機会を増やす。 ②ウェブページや学校案内パンフレットなどの広報手段を拡大、充実させる。	①地域との交流活動に参加した生徒数。 ②広報活動を拡大、充実できたか。	①吹奏楽部、チアリーディング部が地域のイベントに参加した。新たに部活動体験を実施した。 ②こまめなHP更新による情報発信や、学校見学・部活動体験などを中心に積極的な広報活動を展開した。2回の学校説明会で延べ約2,400人の来場者を得た。	①地域との交流活動に参加する生徒を増やすとともに、その活動を保護者や地域との情報交換の場として活用できるようにする。 ②周辺地域の本校に対する関心が高く、学校見学等に非常に多くの参加をいただける中で、更に組織的な対応の充実が求められる。	近隣地域からすると、落ち着いた学校であるという安心感がある。また、中学生は、卒業生から情報を得ている。交通の便や制服のデザインだけではなく、受検倍率に反映していると思われる。	例年行われる地域イベントへの参加は定着した交流が進んでいる。お掃除大作戦が天候不良により中止となるが多かった。お掃除大作戦は保護者も参加し、自己肯定感を育成するよい機会なので、次年度も継続する。新規に部活動体験会を設定し、学校情報の発信を一層充実させた。	一般生徒を巻き込んだ地域交流や地域貢献の機会を設けられないか、学校運営協議会等で検討する余地があると考え。来場者の満足度を念頭に置き、学校説明会や部活動体験会が安全に実施できるよう、内容や受け入れ態勢をさらに充実させる。
5	学校管理 学校運営	すべての職員が教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校文化を形成する。	高校教育を取り巻く様々な課題に協働して対処していく体制をつくる。	課題解決のために必要な情報を得たり、協働性を養うための研修等を実施する。	課題解決のために有効な研修を実施できたか。	学校経営や事故防止関連の研修、学校医によるAED研修、外部専門家による高大接続改革関連研修、本校職員によるDIG防災研修等、16回の研修を実施した。	有効な職員研修を実施するとともに、日ごろから学校内の課題や問題点を職員間で共有し、情報交換ができる環境や教員同士が学びあう体制を作ることが必要である。	授業終了時刻が遅くなった中で様々な研修を行っており、たいへんだろうが必要な研修については継続してもらいたい。	年間を通して16回の職員研修を実施し、教育的な課題や防災、事故防止について意識を高めるとともに、校内の課題について共有し、意見交換できる環境が整いつつある。	職員研修に係るテーマ設定に、日ごろの問題意識や職員の要望を取り入れるなどしていく。DIG研修は対象を広げていく。災害時の対応については、学校運営協議会等の場で話し合われるとよいと考える。